

飯豊本山・大日岳 山行報告



山行日：平成30年7月14日（土）～15日（日）

天候：14日 曇りのち晴れ 15日 晴れ

登山方法：小屋泊縦走

メンバー：薄井

行動時間：

14日 11:05 御沢キャンプ場－13:15 笹平－13:40 峰秀水－15:15 三国岳（小屋）

15日 4:35 三国小屋－5:45 切合小屋－6:15 草履塚－7:30 本山－8:30 御西小屋

8:50－9:55 大日岳－11:10 御西小屋－14:00 切合小屋－15:15 三国小屋 15:45

－18:10 御沢キャンプ場

今回のスタート地点となる御沢キャンプ場には11時少し前に到着した。晴れ予報の連休初日だが「停められないことはまずない」との前情報のとおり、ほぼ満車に見えた駐車場にはところどころ空きがあり、管理棟の奥にもまだスペースがあった。

支度をすませ、届を提出して11時5分出発。10分ほどで大滝への散策路と分け、飯豊山神社への表参道となる登山道へと踏み出す。この時間なのでほかの登山者の姿は見あらず、熊除けの鈴をぶら下げることにした。祖母のお遍路用だった鈴だから、御利益はあるはず。

今日はずす曇り。樹林帯の中のまるでU字溝の底を歩いているような深くえぐれた登山道は風がなく、歩きはじめは全然力が入らない。昨日の夜遊びがこたえているかも。途中

の休憩で、置き方を間違えたザックが登山道を数メートル滑落して中身が散乱したときは、ぐったりしてそのままUターンして帰りたくなった。

しかし名にし負う飯豊の急登とはいえ、2週間前の西黒尾根に比べれば緩やかだ。寝具や食材を入れたザックはあのときより重い、中十五里を過ぎた頃から次第に調子が出てきた。相変わらず樹林帯の中だが、おいしいと評判の水場に早く着きたい一心で足を運ぶ。

道がトラバースに変わってしばらくしたころ、前方で何かの音が聞こえた。熊？ここまで来て熊で敗退？鈴を鳴らしてしばらく様子を伺うが、その後は何の物音もしない。恐る恐る先へ進んでみると間もなく水場に出て、数人が休んでいるところだった。このあたりから前方にいる登山者に追いついたようだ。

峰秀水というこの水場を過ぎると、稜線の岩場を上り詰めたところに建つ三国小屋が見えるようになってきた。岩場の途中にある剣ヶ峰の先から右下にガレ場を数十メートル、トラロープを伝って下る水場にも寄ってみると、盛夏になると枯れることもあるそうだが、今日はしっかりと水が出ている。



3時10分に三国小屋に到着。2組の受付を待って、今日の宿泊をお願いする。さらに2時間ほど登った先にある切合小屋で「下(三国小屋)まで行って」と言われて下りてきた人もいるらしく、ずいぶん賑わっており、最終的には50人の定員に9割程度の入りとなった。珍しいことら

しく、管理人さんも「こんなに混むのは数年前のシルバーウィーク以来」と驚いている。

2階のスペースで汗を拭いて一休みし、5時から夕食の支度をした。食事を終え、お茶を淹れてデザートフルーツを持って外に出ると、小屋の2階より外の方がよほど涼しい。

次第に雲がとれ、御西岳の稜線に日が沈もうとしている。三国小屋から本山は見えないが、御西小屋とその先にそびえる飯豊連峰の最高峰大日岳が遠い。反対側には喜多方市街の奥に磐梯山が目立つ。こうしてみると、磐梯山は東北には珍しくエッジのきいた山容をしており、小粒ながらきりりとかっこいい。

避難小屋だから消灯も何もない。暗くなる前に寝てしまった。明日の最大目標は大日岳だが、ピストンだからどこでやめてもいいのだ。帰り道の勝手がわかっているのも心強い。

翌朝は3時半に起床。夜の間風が強くなっていた。外に出るとガスが濃いけど暗くはない。朝食を取り、不要な荷物をデポさせてもらおうと、4時半に出発した。



最初は、山腹を左右になぞるように樹林帯に入って出てを繰り返す。やがて前方の視界が開け、ぼんやりと本山が見えてきた。みるみるガスが引き、輪郭がくっきりと浮かび上がってきた。きっぱりと文句なしの晴天。大日岳まで続く稜線もはっきりとわかる。

短い雪渓を超えると、切合のテン場とその先に小屋があった。小屋のすぐ前に引かれた水をいただいて気分転換。雪渓に沿って草履塚への登りにかかる。いったん下って、本山小屋への最後の登りが待っている。まずは御秘所なる鎖のかかった岩場を超え、常念岳を小さくしたような、ガレた斜面をじわじわと登る。登りきるとまずはテン場、そして本山小屋が見えた。神社にお参りをし、10分ほど先の本山山頂へ進む。

本山到着は予定より30分ほど遅れていたが、御西岳までは行こうと決めていた。引き返して日の高いうちに下山しても、灼熱の喜多方盆地でラーメンを食べる気にもならない。大日岳はともかく、花街道で有名な本山から御西小屋までは歩いておきたい。



緩やかな道を、さまざまな花に見とれながら歩く。強い風が冷たくて心地よく、何だかもうすべてが美しい。花が豊富なのに虫がいないのもいい。代わりにトンボがたくさん飛んでいる。来てよかったなあと思ふ。

御西小屋に到着した時点では確かに引き返すつもりでいた。けれど小屋の前で大休止し、トイレもすませ、さて大日岳方面をちょっと覗いてみようかと下り坂に踏み込んだらもう止まらなかった。山がおいでと手招きしている。無事歩き通せば、2週間前の谷川岳主脈日帰りと同レベルのロングハイクになる。まあ日が長い今だからできることだし、もし4時までに三国に戻れなかったら、連絡してもう一晚泊まることにすればいい。

いったん文平ノ池まで下って登り返す。最後に空腹を感じて足が止まってしまったが、

1時間ちょっとで飯豊連峰最高峰の大日岳に登頂した。長かった。雲が多いので周辺の山々がはっきりとはわからなかったが、快晴なら日本海も見えるのだろうか。帰り道も長いが、草履塚の登り返しと三国岳直下の岩場さえクリアできれば、大変なところはない。

御西小屋まで下り、今度は小屋前をスルーしてそのまま来た道を引き返す。梅花皮方面へ向かう道も魅力的に見えた。次は季節を変えて来てみたい。

駒形山、本山、本山小屋、御秘所と来た道をたどる。草履塚の登り返しがやはりこたえたが、それほど長いものでもなかった。また切合小屋が見えてきた。朝はガスの中を歩いていたからあまり感じなかったのかもしれないが、ここから三国小屋までが意外とアップダウンがありきつかった。標高は下がるし風も止まっているので暑さがたまらない。



3時15分に三国小屋へ帰着。少し心が揺れたが、ここからの下りだけのためにもう一晩泊まるのはもったいない気がして下ることにする。管理人さんの「今日はすごい運動量だけど気をつけて」の励ましとCCレモンで復活した。パッキングをし直して出発し、慎重に岩場を通過すれば、あとはただ下るだけ。水場も独り占めで使いたい放題である。



順調に標高を下げ、中十五里でザックを下ろしたら鈴の音が聞こえて、まもなく単独の男性が下りてきた。自分の鈴の音が小さくて不安だったという。

富山から来たというこの男性とともに、福島の人や富山の人（山が地元にある人）がいかに山に登らないかなど、どうでもいいことをしゃべりながら引き続き下っていく。一昨日集まった福島の前同僚たちは、喜多方に住んでいても川入を知らない、福島市に住んでいても浄土平から上は登ったことがないというような人ばかりだった。もちろんこちらだって千葉のサーフスポットなんて全然知らないから人のことは言えない。

ともあれ、無事明るいうちに登山口まで戻ってくることができた。少し遅れてしまったが下山報告を入れ、満足度の高い飯豊デビュー山行を終えた。